

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4590300192 | | |
| 法人名 | 株式会社山崎産業 | | |
| 事業所名 | 大瀬別荘G.H. | ユニット名 | 愛宕ユニット |
| 所在地 | 宮崎県延岡市古城町3丁目11-12 | | |
| 自己評価作成日 | 2022/11/14 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年1月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 |
| 訪問調査日 | 令和4年12月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本事業所は理念を大切にしている。5項目の理念を1項目ずつ毎日の朝礼で全員で唱和している。常に行動の指針として理念に合致しているかを検討する。1つ目は利用者の個別化であるが、居室も個別化の環境を整えている。2つ目の協力、協働、3つ目の四季を意識、4つ目の尊厳の保持、5つ目の地域密着、についても、それぞれ意識して実践している。次に食事を大切にしている。排便コントロールで苦しむ利用者がほぼ皆無であることはアピールしたい。さらに安全安心では、今まで必死の思いで職員一丸となってコロナクラスターを起こさなかったことで実践できたと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは高台の岩盤もしっかりした敷地にあり、2階の会議室を地域住民の避難場所として利用できるように寝具なども準備している。経験豊富な職員も多く、顧問や管理者との意見交換や情報の共有が図れており、利用者や家族の意向に沿う支援がされている。コロナ禍で思うような外出支援に限られる中ドライブや散歩などの支援に取り組んでいる。利用者が季節を感じる事のできる食事や行事食を楽しめるように取り入れている。運営者は職員の外部研修や資格取得に向けた支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 現在の状況下、難しい内容もあるが毎朝の朝礼で理念を一項目ずつ唱和し、理念を意識しながら実践している。また、施設内の至る所に理念を掲示し、常に理念を意識するように努めている。 | | 施設内の至る所に理念を掲示し、毎朝、朝礼の際、1項目ずつ唱和している。また昨年、理念を具体化した「行動指針」を作成し、実践に繋げるように努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入り、町内の一員として付き合っている。管理者が、地域の会合に出たり、地域の「水辺の協議会」にも参加し、意見を言ったりもする。地域の一員として活動している。 | | コロナ禍で交流できないが町内会に入会し、地域の「水辺の協議会」の一員として堤防整備など地域資源の活用などの話し合いに参加し、活動している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍の中であるが、訪問の事業者や見学者などに、認知症の方はアプローチ次第では穏やかに暮らせることを説明している。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で、やむを得ず書面会議の回もあったが、出来るだけ対面での会議を指向した。参考資料を十分に準備し、短時間での開催でも充実した内容にするために努力した。頂いた意見を処遇に生かしている。 | | コロナ禍で短時間の開催や書面の際は手渡しして意見を聞いたり、できる限りの取り組みをしている。処遇の意見は職員の行動制限などに対してねぎらいの言葉掛けができています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 疑問や質問があるときには管理者は市役所に出向き、担当者と直接面会の上、確認している。また、事業所の実情についても可能な限り面談にて伝えている。 | | 疑問や質問がある時は直接、市役所の担当者と顔を合わせるようにしている。また推進会議にも参加してもらいいつでも相談できる関係が構築されている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修の機会も多くあり、学びも多く、ケアの実践にしっかりと取り組んでいると思う。特に転倒予防のために取り外し自由の手すりを購入し、利用者自身が自由で安全に移動できる取り組みを実施した。 | | 研修などで身体拘束しないケアを話し合い、玄関は施錠せず、外出願望のある方は玄関前の「憩いの広場」のソファでゆっくりしている。また手すりを購入し、転倒防止のケアに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員研修で、虐待を学ぶことを年間計画に入れ実施している。朝礼では、利用者の皮膚状況を毎日報告し、不審なアザなどがないか意識を向けるようにしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用する利用者もおり、職員は理解を深めながら支援している。また、必要であると思われる未利用の利用者には、家族に対して紹介したり利用を勧めたりしている。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学希望者には、丁寧な説明と施設見学を実施する。と同時に出来るだけ多様な施設を見学するように勧める。契約をする場合は、再度丁寧に説明し、納得の上で契約することを実践している。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族面会や、病院付き添いなどで、家族の来荘があった場合には、必ず職員が面会し、いつでも意見や要望を聞くようにしている。また、電話でも小まめに連絡し、家族の意見要望を聞いている。 | 面会や病院付き添いの際に声かけして意見や要望を聞いている。昨年は家族の希望で利用者の秋の叙勲のお祝いを町長をはじめ関係者一同でホームでしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年間を通じて、職員には様々な意見や提案を聴くためのアンケートを実施し、提出後は一覧表にして配布し、反映させている。 | 職員研修でテーマを決め、アンケート形式で職員の個々の意見を聞けるようにしている。フィードバックの為に一覧表にして運営に反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 努力しているつもりであるが、コロナ禍、物価高等の要因もあり、職員が納得する給与水準に達していないことは理解している。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は、向上心があり常日頃より勉強している。法人内の職員研修、法人外の研修に積極的に参加するように情報提供している。この度、Web研修に対応できる部屋を準備した。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ過の中でなかなか難しい点が数多くあると思うが、コロナのクラスターを経験した施設に訪問し、詳しく話を聞き、対処法を文書にして職員に周知したことなど協力を仰いでいる。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 安心してもらう為の関係作りを一生懸命心掛けています。利用のし始めは情報収集をしっかりとするためにも様々な会話を試み、ゆっくりでもしっかりと要望等に耳を傾けながら努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族との窓口はケアマネが担当しており、家族にも目を向けしっかりと対応している。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その利用者がそれまでにどこで生活していたか、もし在宅だった場合は独居かそれ以外かでも初期対応は違って来る。ケアマネ、介護職員がニーズを把握する努力をしている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 忙しい業務をこなしながら、利用者と一緒に色々な事を行ってきていると思う。泣き笑い、お互いが生き活きと生活できる場を作りたいと支援している。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が可能な場合は、家族にも外出支援や病院受診などの役割を担っていただく。また、利用者が寂しがっているときは電話をし、会話の機会を作る。面会に来やすい雰囲気を作る努力をする。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今までコロナ禍だったので、馴染みの場所へ行くことが出来ていなかったと思うが、なるべく馴染みの人などと関係が切れないよう細かい心遣いに努めている。 | コロナ禍で家族や利用者の希望通りにはならないができるだけ工夫している。ガラス越しの面会や病院受診の付き添いなど関係が継続できるように支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 性格が様々なので摩擦もあるが、基本的に利用者同士、思い合っていると思うことが多く、間に入るスタッフの力が大切であると感じながら支援している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後、必要に応じて相談や支援を行っている。経過報告のため家族が来荘される際は丁寧に対応する。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 同じ時間を過ごす中で、一人ひとりのその時々々の気持ちや本意を行動や言動、表情などから察し、その人の視点に立って考え、希望に沿う生活が出来るよう心掛けている。 | | 職員は利用者の日常の会話や言動、表情から個々の思いや希望を察知し、本人本位のケアに取り組んでいる。毎月の音楽療法は全利用者の楽しみとなっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりのペースを乱さず、これまでの生活情報等を家族から聞き取り、また、本人との会話の中で得た情報等を職員間で共有・把握し、その人らしく生活できるよう努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日課の中でバイタルチェックを必ず行い、また、排泄も記録に残し一人ひとりの状況を把握したうえで、介護記録や申し送り等で職員間の共有を図る。過ごし方、有する力の現状把握はユニットカンファレンスで共有する。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 生活する中での本人の思いや状況把握、家族の意見を取り入れ、カンファレンス等で課題やケアのあり方等を話し合い、介護計画に反映するよう心掛けている。 | | 毎月、ユニットごとに全員で一人ひとりのカンファレンスを行い、課題の解決のための目標を決め個別ケアしている。それを反映して現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別ケアや日々の様子の変化や気づき等を介護記録に記入し、随時、職員間で情報交換、共有している。また、カンファレンスやモニタリングを活かし、介護計画の見直しを行っている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況の把握を行い、本人や家族のニーズに柔軟に対応するように常に心掛けている。職員間で意見が分かれることもある為、適宜カンファレンス等を開催している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍の中で、訪問歯科診療、訪問理美容、移動眼鏡調整など様々な地域資源を利用、共同しながら支援している。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族、本人の希望を第一にかかりつけ医を決めている。また、専門医受診でも家族、本人の意向に沿うようにしている。 | 関係医療機関との連携を図りコロナワクチン接種、インフルエンザの予防接種など往診にて行われている。家族対応もあり利用者の希望に沿う受診支援がされている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師へ利用者の状態変化の報告を行い、情報を共有の上指示を受け、それに基づいて対応している。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、施設内での状況を報告している。また、入院中の状況も医療機関より情報収集している。退院時も入院中の状況を情報収集している。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人・家族へ説明し、施設内で出来る事、行う事を職員同士、訪問看護と話し、実施している。状況に応じて医療機関への受診も行っている。 | 重度化した場合の方針の共有が図れている。状態の変化や方針の変化に応じて、その都度、家族や医師、訪問看護師との話し合いながら支援している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルにて把握しており、必要に応じ訪問へ連絡し指示を得ている。また、施設内に設置しているカメラを活用し、転倒事故などは振り返りを必ず行い、再発防止の参考にしている。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を実施し、もしもに備えている。地域との連携は運営推進会議でも話題に出ているが、コロナ禍で未だ難しい。 | 定期的な避難訓練では夜間想定訓練もしている。備蓄食糧には期間や食べやすさなど工夫してしている。今回の台風時には顧問、管理者など宿泊室にて待機し安全対策に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尿・便汚染をしても主を傷つけない声かけを心掛けている。また、同じ話を繰り返す時にも傾聴を心掛けている。 | | 入浴時の着替えや、居室にて一人で過ごしたい利用者にはプライバシーを損ねない配慮をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の話に対し、途中で遮るのではなく、きちんと聞くことを心掛けている。また、ペースがゆっくりな方に対してもペースを合わせることで主の想いを聞けるように心掛けている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 特に入浴の日に無理やり職員のペースで入れるのではなく、利用者の気分やタイミングで入浴している。食事の時間がずれてもその人に合わせて対応している。散歩なども希望に沿って実施している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 化粧が好きな利用者には本人のペースで化粧を行ってもらっている。また、髭剃りも行ってもらっている。室内で帽子をかぶる習慣のある方は希望に沿って支援している。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 嫌いな食材は他の食材に変更する。食卓を拭くなど出来る範囲で利用者と共に準備する。本人が食べやすい食事形態にして提供する。土用のうなぎ、秋の鮎食べなど、季節と地域を意識している。 | | 利用者のできる事で一緒に準備している。季節を感じる土用の鰻はホームで焼き、地域ならではの鮎も利用者の状態に合わせて楽しんでいる。行事食も手作りの物をと工夫し日々の食事が楽しめるように配慮している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1人ひとりの観察を十分行い、職員で共有し、水分摂取量の少ない方には声掛けを行ったり食事量の少ない方には栄養補助食品の提供を行っている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 週1回の訪問歯科診療を取り入れ、専門家からの指導の下、本人や介護者が意識をもって口腔衛生に取り組んでいる。歯科治療も適宜実施している。また、2名の歯科衛生士が介護に従事している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 適宜トイレの声掛けを行い、排泄動作も自立で行えるように支援している。個々人にフィットする排泄用品の検討を必要時に実施している。 | 排泄チェック表を活用してさり気ない言葉かけや、誘導でトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また一人ひとりに合わせたパットや紙パンツも検討の上、支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝礼時に、個々人の排便状況を共有する。腸活に優れた食事を意識して提供し、毎日日課として体操を行い運動を行う。また、医療と連携し、排泄コントロールを行なう。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その日の気分や体調、本人の意思を尊重して入浴を行えている。個室であり、好きな音楽を聴きながら、また、入浴中に歌を歌う利用者もいる。 | 利用者の気分に合わせて入浴支援がされている。拒否される時にはタイミングを図り声かけするなど工夫している。また足浴も取り入れ支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者個々人の生活習慣を尊重し、昼寝をしたり就寝できるよう支援している。就寝時間は一応決めてあるが、深夜までリビングで過ごす利用者もいる。基本的に自由である。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の際には、必ず名前、日付を確認して誤薬防止に努め、飲み込んだ後の確認を行っている。症状の変化も確認している。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事活動やレクリエーション等を通じて楽しみや喜びを感じられる様に支援している。嗜好品はコーヒーなどが好きな場合は食後やおやつ時間に提供したりする。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在、コロナ禍で外出が難しく、周辺の散歩以外はほぼ実践できていない。 | コロナ禍ではあるがホーム周辺の散歩や車の中からのドライブの支援に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 愛宕ユニット | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持は出来ていないが、事業所内で預かり使用は出来ている。外出し、店舗で買い物することは、現在のコロナ禍ではできない。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙を書く力のある利用者は現在、在籍していない。携帯電話を持ち込み自ら連絡するのは自由である。希望に応じていつでも職員が家族に電話を繋ぐことが出来るようにしている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | オープンキッチンで、調理の音、匂いを感じながら生活している。清潔保持に努めており、季節に応じて壁面の飾りも変え、季節感を感じられる様に工夫している。 | 共用空間には季節を感じる飾り付けがされ、清潔保持にも工夫しながら、室温や彩光にも配慮がされている。利用者が居心地よく過ごせる工夫がされている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気を遣わず過ごせる様に席の配置等を配慮している。ウッドデッキにはベンチ、玄関前には椅子、テーブルを置き、自由に使用できるようにしている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には家族に協力を得ながら、本人の過ごしやすい様に環境整備を行っている。思い出の写真や色紙を飾ったり出来るようにしている。 | 利用者の居室にはそれぞれ好みの椅子や机、またテレビなどが置かれている。家族が来所の時も居室でゆっくり出来るように配慮がされている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室やトイレ等をわかりやすく表示して安心して一人でも行き来出来る様にしている。手すりを適宜配置して安全に移動できるようにしている。 | | | |